

2016年度PMからのメッセージ

氏名・所属:石黒 浩(大阪大学大学院 基礎工学研究科 システム創成専攻 教授
ATR石黒浩特別研究室室長)



略歴:

- 1991年 4月 山梨大学工学部情報工学科・助手
- 1992年 4月 大阪大学基礎工学部システム工学科・助手
- 1994年10月 京都大学工学研究科情報工学専攻・助教授
- 1998年 4月 京都大学情報学研究科社会情報学専攻・助教授
- 1998年 3月 カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員
- 2001年 4月 和歌山大学システム工学部情報通信システム学科
大学・教授
- 2002年10月 大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学
専攻・教授
ATR知能ロボティクス研究所・第二研究室・客員室長
Vstone(株)・特別顧問
- 2009年 6月 大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻
・教授
- 2010年 1月 ATRフェロー
- 2013年 7月 大阪大学特別教授

専門分野:

知能ロボット
知的情報システム
ヒューマンロボットインタラクション
センサネットワーク
画像認識
メディアアート

メッセージ:

日本は情報メディアやロボットのハードウェア作りについては、圧倒的に世界をリードしています。携帯電話やパソコンやロボットを作れば、日本ほど性能の高いものを他国は作れません。しかしソフトウェアについては、残念ながら、米国等に及びません。今後日本が技術開発で世界をリードしていくには、高いソフトウェア開発能力を持ちながら、日本独自の新しい情報メディアやロボット等のシステムを開発できる人材が必要です。この未踏プロジェクトではそのような、未踏のシステムを開発できる人材を育成したいと思っています。

ただ、情報メディアやロボットを狭く捉えることがないようにお願いします。特にロボットに関しては、センサとアクチュエータとコンピュータを備えるいかなるものもロボットです。人と関わり人の生活を支援する全ての機器を情報メディアやロボットと考えています。たとえば携帯電話であってもロボットです。

この未踏プロジェクトで期待しているのは、ソフトウェアの技術によって、センサやアクチュエータやコンピュータと、さらには、インターネットやクラウドコンピューティングと組み合わせ、人と関わり、人々にサービスを提供するシステムを提案する人材です。この未踏プロジェクトを通して、ソフトウェアとハードウェアの組み合わせにおいて、世界を驚かせるようなシステムを実現することを期待しています。

開発するシステムはメディアアートと呼ばれるものでも、ロボットでもどのようなものでも対象にします。より重要なことは、まだ誰も知らないものを提案し、それを実現するということです。まだ誰も知らなものは何かということについては明確な基準はありませんが、提案者が自分自身で十分に自信が持てる提案を期待しています。

この未踏プロジェクトを通して、提案者と一緒に世界を驚かせることができればと思っています。また、ロボットや情報メディアのハードウェアが必要となる場合に、その調達に関して、私の方で手伝えるものについては手伝っていきます。故に、自らは準備できないが、世の中にあるシステムやロボットを使えば、革新的なシステムを実現できるという提案も受け付けます。自分自身の持つハードウェア等に制約されないで、自由な発想で提案してください。

審査基準:

- まだ誰も作ったことがないソフトウェアやシステムを作る提案
情報メディアやロボットをどこに使えるかとおもしろいかといろいろ考えると、意外な使い方が見つかるものです。そういった、まだ誰も発想しなかったようなシステムの提案を期待します。ただ、それが単なる思いつきではダメです。なぜ、それがおもしろいかという説明をしっかりとってください。
- 世の中に普及しそうなソフトウェアやシステムを作る提案
インターネットやクラウドに、情報メディアやロボットを組み合わせることで、比較的簡単なものでも、社会に普及する可能性が高いものを作れる可能性があります。そういった提案を期待します。
- 人の能力や未知の側面をあらわにするソフトウェアやシステムの提案
そのシステムを使うことによって、ユーザが、自分とは、人とはどんなものであるかを新たに気がつくということがあります。優れたメディアアートのシステムなどがその例です。そういったシステムの提案を期待します。
- 全く役に立たないソフトウェアやシステムの提案
一見役に立たないシステムでも、認知科学的、哲学的に非常に意味のある場合があります。そういった、人や社会の本質を知ることができるようなソフトウェアやシステムの提案を期待します。

いずれの提案においても、プロジェクト推進において十分なソフトウェア・システム開発能力と熱意を持っている必要があります。